

大量の水が見せる複雑な顔



◀雨が降るたびに延びる雑草との戦い (7月15日)
▶排水路は足場が不安定



5月、7月、9月は排水路の周辺の除草作業実施月です。農地所有者の方々には、関係する部分をそれぞれ除草作業をお願いしています。

今年の7月は長い梅雨の中で、作業は楽ではありませんでした。しかし、多くの方が除草作業をしてくださいました。

美しい農地を維持するのは、楽ではありません。しかし、そのために国や県、市からたくさんのお金を頂いていることを忘れてはなりません。



自動車の通行はできない状態になった7月14日午前6時

新たな排水対策が必要

7月14日の早朝、この日もかなり強い雨になりました。午前4時ごろが近隣の満潮です。榎野川本流の水位も上昇していました。1班の市道も一部冠水の状態でした。自治会と協力して通行止めの対応をいたしました。農地も南側の一部が冠水状態でしたが、本流の水位が下がるとともに、状況は改善しました。

平成21年の水害の時の記憶が蘇ります。なんとか毎年をしのいでいますが、有効な対策を打てないままです。なんとか手立てを考えたいものです。

水の流れるが教えてくれること

強い雨が降ると、配水路のゲートを倒して、できるだけ多くの水を排水できるようにします。その際、水田の水位の方が高くなることがあります。そうすると、水路の壁面に損傷があると逆流しているのを見つけられます。今年も何か所か漏

水個所を確認しました。水路の問題とは別に、水面にある泡が気になります。生活排水が依然として流れている懸念があります。



水面を流れていくのはただの水疱か

墓地管理 夏の除草作業が完了

7月26日、夏の墓地清掃が行われました。この作業の中では一番危険できつい作業が「新墓地の南側斜面の草刈り」です。急傾斜で大量の草木が毎年、作業者を悩ませます。

今年は、この作業がありませんでした。1班の株式会社亀井組さんが、地域奉仕として事前に伐採をすましてくださいました。おかげで短時間で作業を終えることができました。

作業にかかわった皆さま、大変ご苦労様でした。



(株) 亀井組さんが作業を行われた斜面、まさに重労働

どうすれば野生のサルの群れを追い払えるか



4班の津川さんが撮影してくれた野生のサル。ご自宅のフェンスを歩くところを、ビデオカメラで撮影。その中から写真を切り出してもらいました。

ついにサルの群れにこの地区が、狙われています。市道森下八方原線は東の山地と住宅地の境界のような位置にあります。この沿線でサルの群れに作物を荒らされる被害が相次いでいます。

大根、カボチャ、豆類など食べごろになると、根こそぎ食べ散らかし、一部は持ち帰るといふ状況です。

自治会では、市の担当者と相談して捕獲、威嚇の作戦を取ることにしました。実際には捕獲用の檻にかかるとは思いませんが、威嚇の意味です。



設置された檻、バナナとスイカが置かれている

効果があるのではないのでしょうか。作物にもネットを張り巡らし、簡単には取れないように工夫してあります。しかし、利口なサルのこと簡単には防げないかもしれません。

サルは人間の男性女性、大人子どもを見分けて、行動を起こしています。これからも戦いが続きそうです。

八方原ふれあい盆踊りは中止

30年以上続いてきた「八方原ふれあい盆踊り」今年もコロナウイルス感染予防のために開催を見送ることになりました。

一時は終息が近いと思われましたが、検査数の増加と共に感染者も増え続けている状況です。県内はもとより、市内でも新たな感染者が見つかるという状況で、以前より深刻になっているかも知れません。相手は見えませんが、万全の体制で乗り切りましょう。



奇跡の「ひまわり」になるか

こんなところに「ひまわり」

梅雨の長雨、各地で重大な被害が出ていますが、市道のアスファルトの隙間を突き抜けて伸び続ける「ひまわり」を見つけました。

ほんのわずかな隙間に流れ込んだ種が、生き延びたのです。あまりに健気なので、見守っています。

お地藏さまを元通りに

下の写真は、旧墓地の中にある「六地藏」です。

昔はここを通って、山の焼き場に登ったのでしよう。

草の中に倒れていた2体も起こして、元に戻しました。

